

男女平等と男女共同について

大原小学校六年 山口 真凜

昔から男性と女性は地位や仕事等で平等に扱われることはあまりない。現在は変わってきたが、昔は女性は男性を目上に、男性は女性を目下に見ていたと思う。社会では、男女平等や男女共同という考え方は、あまり受け入れられていない考え方だと私は思う。

男女平等についての私の考え方を述べたい。昔から女性と男性が平等に扱われていないのはなぜなのだろうか。権力者や地位が高い人物はほとんどが男性である。昔は「女の仕事」、「男の仕事」と、仕事の選択肢までもが限られていて不公平だった。現在は男女間での選択肢も増え、一人ひとりが好きな仕事に挑戦できるようになってきたが、まだまだ完全に自由平等とは言えないと思う。

次に、男女共同について、昔から「女の仕事」、「男の仕事」や「女のくせに」、「男のくせに」などと、男性と女性は区別されている。そのため、人は異性のことを身近に感じることができない。実際、学校でも学年が上がるほど、異性を敵視するよ

うになったり、一緒に行動することが減ったりすることがある。原因は、学年が上がるほど、異性を意識したり、考え方の違いが大きくなっていったりするため、同性と異性を自然に区別するようになるからだと思う。これらのことは自然なことなので仕方ないと思う。しかし、男性と女性には互いに足りない所を補うために「性」ができたのだと私は思う。確かに、男性と女性は違う所が沢山ある。しかし、そこで「男女共同」を心がければ、互いを認め合った上で補い合い、理解し合えるのではないか。

私の考えをまとめる。同性と異性を区別するのは、異性への理解が足りないからだと思う。意識するのは理解したいからなのではないだろうか。人間は男女平等と男女共同を通して、異性への理解を深める必要があると私は考える。

男女平等について考えたこと

笠間中学校二年 栗橋 孝輔

夏休みに入った七月二十三日の新

聞に、「はびこるマタハラ」と、大きな見出しの記事がありました。僕はマタハラとは何のことなのか分からず、内容を読んでみました。すると、マタハラとはマタニティー・ハラスメントを略したもので、妊娠・出産した女性に対する職場での嫌がらせのことと書いてありました。出産後の就業継続を妨げる大きな要因になっていて、男女雇用機会均等法や育児・介護休業法に違反する例も多いとありました。

戦後の混乱の中で、女性はまず男性と同等の権利を求め、一九四六年に女性参政権が行使され、その後、日本国憲法の施行、家制度を廃止した民法改正などが実現し、大規模な女性団体が次々と設立されました。そして、一九八六年には、男女雇用機会均等法が施行され、女性が男性と同じような働き方を選択できる時代に入りました。

しかし、この記事からは、今でも女性が働くことや、生活する上で困ることが多い世の中であることが分

かります。

女性には働く主婦と専業主婦、子どもを産む・産まないと様々な立場の人がいます。この人たちみんなが生きやすい世の中になるためにはどのようにしたら良いのでしょうか。

社会制度や政策を整えることも重要です。合わせて、一人一人の相手の立場に立って相手を思いやる気持ちも大切だと思います。男性と女性の違いや置かれていく立場をよく理解し、お互い相手のことを考え、尊重し、助け合うことを男性と女性が平等にできたら良い方向に進むと思います。

僕はこの作文を書いていて、男女平等とは、男女が同じ条件で働く、同じことをするというのではなく、お互いを思いやり協力し合うことがそれぞれ同等にできることだと思います。男女平等について一人一人の正しい認識が、男女共同参画社会のより良い形成につながると思えます。